

北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 23 号

2018 年 11 月 12 日

道総研 函館水産試験場

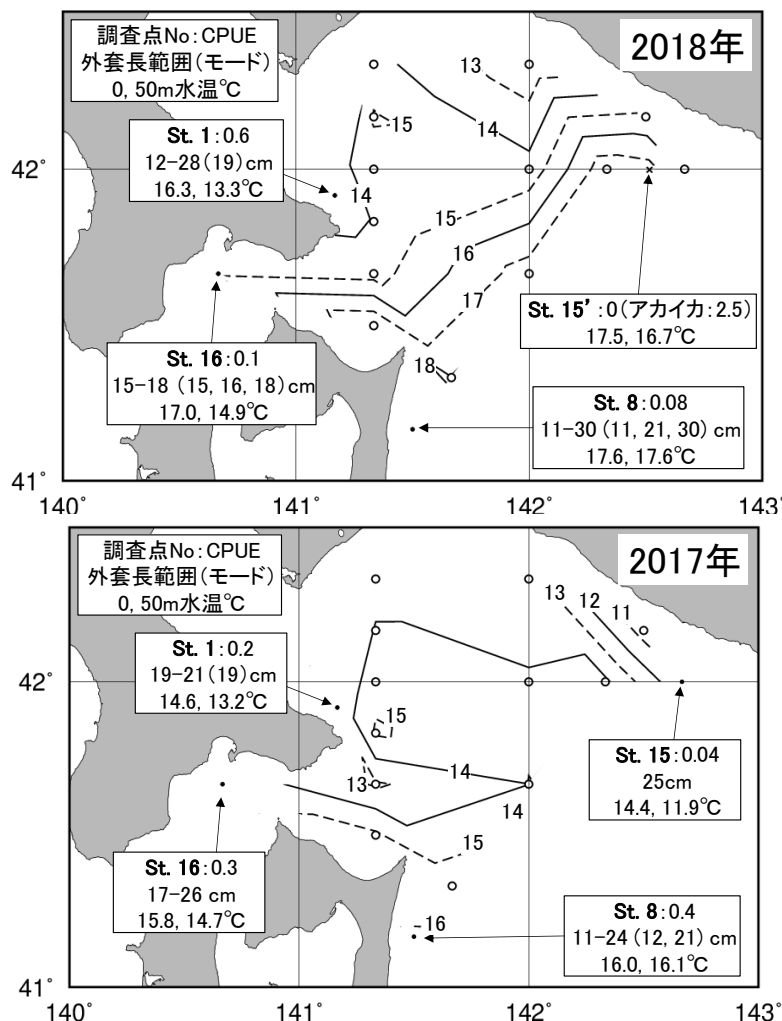
ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎11 月道南太平洋スルメイカ調査結果

11 月 5 日から 9 日にかけて、浦河沖から下北半島東沖にかけての道南太平洋、及び函館沖で、函館水試試験調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 平均分布密度は昨年と同程度で過去 5 年平均を下回った。
- ・ 魚体サイズのモードは昨年より小さく過去 5 年平均より大きかった。

1. 漁獲調査結果と水温分布 (図 1)



漁獲調査点 4 点の表面水温は 16.3~17.6°C (昨年 14.4~16.0°C) の範囲でした。スルメイカの分布の目安となる深度 50 m 層の水温は 13.3~17.6°C (昨年 11.9~16.1°C) の範囲にあり、いずれも昨年より水温が高い傾向が見られました。

調査海域全体の深度 50 m 層の水温に注目すると、津軽海峡から浦河沖まで水温 17°C 以上の暖水が見られ、津軽暖流の張り出しが確認されました。

図1 スルメイカ漁獲調査結果。●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例(1以下は同じ大きさ)。○は海洋観測点。×は漁獲なしの点。等温線は水深50mの水温(°C)。2018年の浦河沖では調査点を移動してSt. 15'にて漁獲調査を行った。

表 1 11 月道南太平洋スルメイカ調査の CPUE と外套長の経年変化。

	2013 (H25) 10/28-11/1	2014 (H26) 11/11-11/12	2015 (H27) 11/11-11/13	2016 (H28) 11/7-11/8	2017 (H29) 11/6-11/10	2018 (H30) 11/5-11/9
St. 1 (木直沖) CPUE	6.08	-	0.70	0.07	0.22	0.61
St. 8 (下北半島東沖) CPUE	0.87	-	-	-	0.40	0.08
St. 15 (浦河沖) CPUE	53.7	10.2	-	-	0.04	0.00
St. 16 (函館沖) CPUE	0.48	-	-	-	0.28	0.12
平均 CPUE (尾/台・時間)	15.3	10.2	0.70	0.07	0.24	0.20
外套長の範囲 (cm)	15-29	21-28	20-28	18	11-26	11-30
各地点の外套長モード (cm)	16-24	25	21	18	12-21	11-30

2. 分布密度 (図 1、表 1)

漁獲調査点 4 点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間あたり漁獲尾数) は 0.08~0.61 (昨年 0.04~0.40) の範囲で、最も CPUE が高かったのは木直沖 St. 8 (0.61) でした。漁獲調査を行った 4 地点の平均 CPUE は 0.20 で昨年の平均 (0.24) と同程度で過去 5 年の平均 (5.30) を下回りました。また St 15'ではアカイカが漁獲され、アカイカの CPUE は 2.52 でした。

3. スルメイカの大きさ (図 1~2、表 1)

スルメイカの外套長は 11~30 (昨年 11~26 cm) の範囲にありました。最も多く出現したイカの大きさ (モード) は 19 cm で昨年 (21 cm) より小さく、過去 5 年平均 (18 cm) より大きいサイズでした。

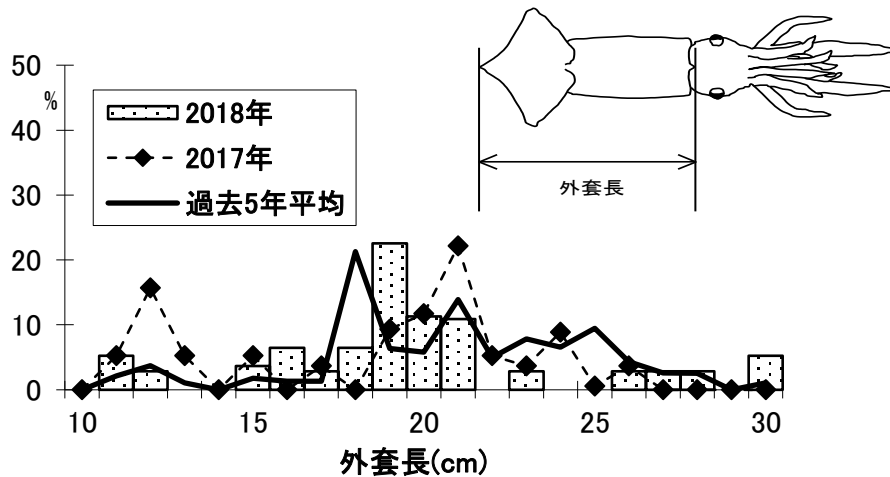


図 2 海域全体のスルメイカ外套長組成